

## 8. 代理によるミュンヒハウゼン症候群 (Munchausen Syndrome by proxy, MSBP)

子どもに病気を作り、かいがいしく面倒をみることにより自らの心の安定をはかる、子どもの虐待における特殊型です。加害者は母親が多く、医師がその子どもに様々な検査や治療が必要であると誤診するような、巧妙な虚偽や症状を捏造します。

加害者は自分が満足できる結果がでて、処置をしてもらえるまで「その」状態を続けるため、必要のない検査が延々と続くこととなります。加害者が医療者の注意を十分に引きつけることができないと、子どもの症状がどんどん重篤になり、致命的な手段もいとわなくなることがあるので、十分注意が必要です。しかし、医療者が疑いを持つと、急に来院しなくなったり、別の医療機関を受診したり、これまでに学習した知識を基に、さらに巧妙な症状をつくりだすこともあります。一般的に加害者は、医師に熱心な母親である、という印象を与えます。「この母親が虐待などするはずがない」と、思わせることがまれではないため、何か「おかしい」とMSBPを疑うことが大切です。

### MSBPのタイプ

#### 1. 虚偽による訴え

子どもに実際には手を出さず、存在しない症状だけを訴え続けるものです。症状を目撃、確認している第三者はおらず、訴える保護者のみが観察している状況があります。子どもにとっての不利益としては、不必要な検査や治療、保護者への不信感の形成などがあります。

#### 2. 捏造による訴え

##### 1) 検査所見の捏造

体温計を操作して高体温を装う、子どもの尿に自分の血液を混じるなどをして血尿を装うなど、人為的に検査所見を捏造して訴えるものです。子どもにとっての不利益としては、不必要な検査や治療、保護者への不信感の形成などがあります。

##### 2) 身体への人為的操作による症状捏造

子どもに薬物等を飲ませる、窒息させるなどの行為を行い、子どもに実際の身体不調や病的状態を作り出し、そのことを病気の症状として訴えるものです。子どもにとっての不利益としては、身体的異常(最悪の場合、死亡)、不必要な検査や治療、保護者への恐怖感・不信感の形成などがあります。

### MSBPの一般症状

極めて多岐にわたります。無呼吸、けいれん、出血(血尿、吐血)、意識障害、下痢、嘔吐、体重増加不良、敗血症、局所の感染を伴うことのある発熱、発疹、高血圧などです。

### 臨床症状の特徴

症状の確認が困難な、発作的要素を持つ症状が多く、加害者への問診が中心となる。

医学的な知識があれば、症状を作りやすく、かつ劇的な所見を呈するものが多い。

(母親は、熱心な母親を演じながら、医師からこのような情報を得ている)

## MSBPを疑う徴候

- ① 持続的、あるいは反復する症状(病気)  
(「これまでに診たことがない」というような、非常に稀な症状であることがある。そのために、様々な検査がおこなわれる。)
- ② 子どもの全身状態は良いにもかかわらず、養育者は危機的な症状や重篤な検査結果を伴う病歴を訴える。
- ③ 子どもの側を離れようとせず、よく面倒をみているようにみえるが、重篤な臨床状況に直面してもあわてるそぶりがみられない。
- ④ 養育者と分離をすると、症状が落ち着く。
- ⑤ 通常の診療において有効な治療が無効である。
- ⑥ 過去にいくつもの医療機関を受診している。(その過程で、加害者は医学的な知識を増やしている)

原因不明のけいれん、意識障害、呼吸障害などがあり、薬物による症状を疑ったときは、血液・尿など採取し、検査することが必須です。麻薬、覚醒剤、興奮薬、向精神薬、ベンゾジアゼピン系薬剤、農薬などのスクリーニング試薬が市販され、高度救命救急センターなどで検査が可能です。より詳細な検査は、大学法医学教室や警察の科学捜査研究所などで可能です。

## MSBPの診断の手順

- ① 子どもの病歴を詳細にとる。これまでその家族と関わりを持った医療機関から情報を得る。
- ② 医療機関だけでなく、保健所・保健センター、福祉機関(市町村ケースワーカー、保育園など)、学校など、これまでにかかわった機関から情報を得る。情報収集し、戦略を立てるために、関係機関の間で、ネットワークミーティングを開くことが望まれる。
- ③ 直接保護者(加害者と思われる)から、これまでの病歴を詳細に聴取する。(できる限り、ビデオやテープに記録する)
- ④ 入院中はできるだけ、養育者と子どもだけにしないようにし、できれば気づかれぬようにビデオカメラでもモニターする。
- ⑤ 子どもを養育者から分離して、少なくとも3週間は観察する。児童相談所および弁護士と協議し、一保護委託を検討するとともに、その後の法的な対処も準備する。

## 様々な病気の作成方法

出血	ワーファリン フェノールフタレイン 本人以外の血液(生理血・動物など) 故意に子どもに出血させる 血液以外の物質を使う(絵の具、染料、ココアなど)
けいれん	虚言 薬物投与(フェノチアジン、炭化水素化合物、塩、イミプラミン、テオフィリン) 絞首による窒息/頸動脈圧迫
抑うつ状態	薬剤(抗精神薬、抗けいれん薬、インスリン、アスピリン、アセトアミノフェン など)
呼吸困難	手による呼吸路の圧迫、薬物投与 虚言
下痢	フェノールフタレインその他の下剤 塩分の投与
血尿	生理血や動物の血液を混入させる、血液以外の物質を使う(絵の具、染料、ココアなど)
蛋白尿	粉ミルクを混入する
嘔吐	催吐剤の投与 虚言
発熱	虚言 こする
発赤	薬物 ひっかく 腐食剤 絵の具

日本小児科学会子ども虐待問題プロジェクト、2006.4